



2023年交流会の様子 今では交流会参加者卒業生も含めて約70名にも。

編集者が
インタビュー!

井内アジア留学生記念財団の紹介

井内アジア留学生記念財団(以下、井内財団)は、井内英夫前会長と美佐子元相談役が、ミャンマーと日本の懸け橋となる人材の育成を目的に、留学生奨学金助成等の支援をおこなう財団として設立されました。現在は、対象国をASEAN諸国にも展開され、ますます支援の幅を拡充されています。当社とも関係の深い井内財団。当社輸出業務グループに在籍する井内留学生奨学金1期生のプーブマウンさんと一緒に、代表理事と事務局長に財団の活動や想いをうかがいました。

INTERVIEW

※文中 桐原事務局長コメント：以下「桐」
井内代表理事コメント：以下「井」
プーブマウンさんコメント：以下「プ」と表記します

Q.留学生支援はどのように始まったのでしょうか。

桐:財団設立前の2015年に井内英夫前会長と美佐子元相談役が設立した「りそな銀行公益信託 井内留学生奨学金基金」、「JEES冠奨学金 井内ミャンマー留学生奨学金」は、りそな銀行と日本国際教育支援協会(JEES)が学費・生活費等の運営を行っています。そこから助成を受ける留学生は現時点で1期生から9期生の累計55名となっています。そして、その留学生に対し日本での生活面・学習面の細やかなサポートを行うこと、また別途財団独自の奨学金助成を目的として当財団が2018年に設立されました。

Q.この財団を立ち上げるにあたって、どのような想があったのでしょうか。

井:設立者はアズワンを離れても、会社の役に立ちたい、繋がりをもちたいと思っています。今回「介護福祉士養成留学生奨学金」を新設しましたが、将来、ケアマネージャー等になって本国で活躍いただく人材を育てたいという思いと同時に、ここにも、ナビス(現メディカル)事業で得たものの恩返しやお礼ができたという気持ちがあります。私どもも「井内」という財団の名前によって、

アズワンと一緒にがんばっているという気持ちでやっております。

Q.なぜ、最初はミャンマーだったのでしょうか?

井:ベトナムの発展もあり、ミャンマーはアジアで最後のフロンティアと言われていて、まだまだ海外の支援や協力を必要とする国で、私たちの手が一番必要としているところに差し出したいという思いがありました。

Q.ミャンマーはどんな国ですか?

井:国民は親日派で、日本人と同じような感覚を持っている印象です。父母、祖父母を敬い、お世話をするのが当たり前のように。それから、みんなバゴダ(仏塔)に行くそうですよ。デートも、家族団らんの時間も、年配の方のお散歩も(笑)。

Q.日本に来たきっかけは何ですか。

プ:私費で留学するのは難しいと思っていた時、井内奨学金を知り、フルサポートで留学できる機会は二度とこないと思って応募したのがきっかけです。

Q.井内財団の特色はどのようなところでしょうか。

桐:学費だけでなく、生活費も支給し、また学習面や就職の支援までフルサポートしているところです。大学を卒業してからも縁が切れることなく、1年に1回交流会をするなどして、困ったときに連絡をもらえるような関係を続けています。

プ:本当にそうです。私は、日本語学校1.5年間分、大学4年間分の学費+生活費を援助いただきました。しかも返済は不要です。家族のようにお話ができて、プライベートの悩み等も相談できる財団です。

井:一時的なサポートではなく、家族のような温かみのある財団でありたいと思っています。

Q.井内財団のサポートで特に印象に残っていることはありますか。

プ:日本へ出発するとき、初めて飛行機に乗って不安いっぱいの中、搭乗から乗継の各所で、様々な人が手厚くサポートしてくださいました。後からそれが、財団が気を配ってくださったことだと知りました。また、各種申請費用を負担してくださったことや、来日初日から必要な生活物資がすべてそろっていたこともよく覚えています。

Q.介護福祉士養成のサポートについて教えてください。

井:介護福祉士養成奨学金の対象者には、日本語能力試験・N2の資格を条件としていて、主に九州の短期大学を指定校としています。専門学校はたくさんありますが、社会に出たときに困らないよう短大で一般教養や日本の文化も一緒に学んでいただき、最後

には国家資格を取得していただきます。そうすることで、選択肢も広がり、ご本人が望む職場に就くことができます。自分で道を開いていけるようできる限りのサポートをしています。

桐:井内基金の留学生は、優秀な方が多く、有名大学に合格し、一生懸命学ばれています。大学卒業後、企業に就職して活躍されている卒業生を見ると、とても嬉しいです。

井:留学生がどんなことで困るのかわからないことも多かったのですが、プーさんのような立派な卒業生のお蔭で、先を見据えたアドバイスができるようになりました。今後も時代のニーズに合ったサポートができる財団でありたいと思います。

— ありがとうございました!



(左から)桐原事務局長、プーブマウンさん、井内郁江代表理事、井内英夫前会長

最後に英夫前会長が出てこられて、編集員も驚きと嬉しさでさらにテンションが上がりました。

まとめ

「これからの日本はどれも人材不足。だからこそ、良い人材を安定してサポートする仕組みを作らなければ。本当は国がすることだけだね」と目を細める前会長。親のように、プーさんの活躍を喜ばれる3人がとても印象的でした。

おまけ

プーさんに聞きました!

2QUESTION

Q.1 なぜアズワンに?

自分がやりたい事が第一だけど、こんなに立派に育ててくれた人々への感謝の気持ちを忘れず、アズワンにもやりたい事が必ずあると親が言ってくれたから入社を決めました。

Q.2 夢はなんですか?

両親と姉の4人で日本中を旅行してみたいです!

MEMORIAL PHOTO

親友と京都へ



日本語学校の
クラスメイトとの
1枚(2017年、19歳)